

令和7年度
広島大学光り輝き入試
総合型選抜（I型）
教育学部
第三類（言語文化教育系）
日本語・日本文化教育プログラム

小論文問題

実施期日 : 令和6年11月14日（木）
試験時間 : 9時30分 ~ 12時00分（2時間30分）

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は表紙を含めて4枚、解答用紙は4枚、下書き用紙は3枚です。
3. 解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
4. 解答は解答用紙の指定の場所に記入してください。
5. 解答用紙は室外へ持ち出してはいませんが、問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ってください。
6. 机上には、本学受験票、配付した問題冊子等、黒鉛筆（和歌、格言等が印刷されているものは不可）、鉛筆キャップ、シャープペンシル、消しゴム、鉛筆削り（電動式、大型のもの、ナイフ類は不可）、時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可）、眼鏡、ハンカチ、目薬、ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの）のほかは置くことができません。

令和7年度 広島大学光り輝き入試
総合型選抜 (I 型)
教 育 学 部
第三類 (言語文化教育系) 日本語・日本文化教育学プログラム
小論文問題

第1問 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

私は「コミュニケーションの社会学」や「自己と他者の社会学」といった名前の授業を大学で担当している。その1回目に「あなたは、よいコミュニケーションとはどんなコミュニケーションだと思いますか」という質問をすることがある。

これに対する答えは、それほど多様ではない。「自分も相手もリラックスできるコミュニケーション」、「意見を押しつけることのない関係」、「対等でなんでもいいあえる会話」、「よくわかりあえるコミュニケーション」、などなど。ここでは、「互いによくわかりあう」というのが「よいコミュニケーション」「望ましいコミュニケーション」である、という考え方を取り上げてみよう。自分のことをよくわかってもらえる、相手のことをよくわかることができる、これがよいコミュニケーションだ。「わかればわかるほど」コミュニケーションはうまくいっている、という考えだ。なるほどそうかもしれない。

私たちにとって、相手のことがわからないのが苦しいことであるのは間違いない。私のことを相手にわかってもらえないのもつらい。だからコミュニケーションにおいて相手のことがよりわかること、自分のことがよりわかってもらえることが、そうでないのよりずっとよいことはおそらく間違いないだろう。

だが、事はそれほど単純ではないかもしれない。私はこんなことを想像してしまう。私のことが、コミュニケーションによって、相手にどんどんわかられる。あああなたはこう考えているのか、そういう気持ちか、あなたはそういう人か。全部わかられてしまう。もし「わかればわかるほど」望ましいコミュニケーションだとすれば、私のことが100%相手に理解されるのがもっともよいコミュニケーションであるということになるだろう。しかし、こうしたコミュニケーションは(もし成立するとすれば)じつに恐ろしいものではないだろうか。私の見事な伝達能力と相手の見事な理解能力により、私のすべてが相手に理解されてしまうのだ。私は、この事態において、「私」というものが他人に奪われてしまうような、蒸発してしまうような恐怖を感じる。むしろ私だけしかわからない、他人に伝わらない領域があることによって、「私」というものが確保できるのではないか、とも思う。

そして、そのような「私」のなかには、他人に決して見せられないと自分で感じてしまうような、おそらくそれを見せると相手が私を嫌悪していっしょにいられなくなるような部分がある。100%わかりあうコミュニケーションは、それを見せてしまう。そうしておきながら、いっしょに続けてコミュニケーションしあうことができるだろうか。あるいは、100%わかりあうコミュニケーションをしながらいっしょに続けるためには、他人に全部見せてもなんの不快も生まれないような「私」でなければならないだろう。もう「私」は心のなかで悪態をつくことも、いっしょにいながら別のことを考えることもできない。私がそうする自由がある「私」だけの場所を持つことは、「100%わかりあうコミュニケーション」ではできない。100%わかりあうコミュニケーションは、互いに醜いところを見せあっていっしょにいられなくなるか、醜いところがない

令和7年度 広島大学光り輝き入試
総合型選抜 (I 型)
教育学部
第三類 (言語文化教育系) 日本語・日本文化教育学プログラム
小論文問題

ような私へと私を削ぎ落とさなければならぬか、いずれかになるだろう。だとすれば、きっと「よりわかりあう」コミュニケーションをめざすことは、一方ではコミュニケーションの破綻を生み、他方では私から自由が奪われるという帰結に辿り着くのではないだろうか。

(奥村隆『反コミュニケーション』弘文堂 2013 年による)

設問1 本文を 150 字以内で要約しなさい。

設問2 本文をふまえた上で、あなたはよいコミュニケーションとはどのようなコミュニケーションだと考えるか。具体例をあげながら 700 字以上 800 字以内であなたの考えを論理的に説明しなさい。

第2問 次の文章を読んで、後の設問に日本語で答えなさい。

THE CURRENT STYLE OF *SEMPAI-KŌHAI*

Vertical hierarchies have existed since the beginning of Japanese history and are still prevalent in daily life, especially in schools, where seniority rules are important:

The relationships between *sempai* and *kōhai* are very stable among students because everyone will sooner or later be a *sempai*, *kōhai*, or both. Spending more time and having more experience at school gives students *sempai* status. (Okazaki, 1989, pp. 190-191)

For example, third-year students have great power in junior high and senior high schools, and especially in clubs, these relationships are important. It is common in sports clubs for *kōhai* to clean the rooms, collect balls, and manage the equipment for *sempai*. They must also give a small bow or say hello respectfully to their *sempai* when greeting them. In general, students put much more emphasis on age than ability in Japanese schools, and seniority rules also influence relationships between teachers and students. Although schools are rapidly changing today, in most classes students would never criticize or talk back to a teacher. They think that teachers should be respected because of their age, experience, and ability, and what teachers say is always considered to be right. Therefore, there are few opportunities for students to have real discussions with teachers in Japanese schools.

In universities, changes in relationships among students start to take place. They express their respect and use polite expressions to seniors, but *sempai-kōhai* relationships are not as strong, because there is more variety in age among classmates. The differing status between teachers and students

令和7年度 広島大学光り輝き入試
総合型選抜 (I 型)
教育学部
第三類 (言語文化教育系) 日本語・日本文化教育学プログラム
小論文問題

remains the same as in high school, but there are important differences that separate professors in terms of rank and power, and vertical hierarchies involving seniority rules are seen more among faculty than students in Japanese universities. Nakane (1967, p. 92) notes, for example, that "in London University, professors, assistant professors, and lecturers are considered colleagues, and they use first names without thinking in terms of seniority. On the other hand, there are definite vertical hierarchies in Japanese universities."

Seniority rules in Japanese relationships are not only important at schools but also in companies in contemporary Japan. The seniority system and the lifetime employment system are the bases of life in Japanese companies, though it remains to be seen whether this structure will survive the changes that corporate Japan is currently undergoing. Status, position, and salary still depend largely on seniority, and older employees are generally in higher positions and are paid more than their younger subordinates. Moreover, until recently, once people were employed, they never had to worry about their positions because their posts were guaranteed for life. In the business world, the *senpai-kōhai* system has a powerful influence on human relations, such as in meetings where a junior employee will take a seat near the door, which is called *shimoza*, while the eldest person (often the boss) will be seated next to any important guests in a position called *kamiza*. In most meetings, the majority of businessmen do not normally voice their opinions. They simply listen to their superiors, flatter them, or express opinions that were formulated behind the scenes by senior employees of considerable influence.

(Davies, R. and Ikeno, O. 2002 *The Japanese mind: Understanding contemporary culture*. Tuttle Publishing より)

- 設問1 下線部を日本語に訳しなさい。
- 設問2 本文で述べられている、日本の大学とロンドンの大学の教員の人間関係の違いを説明しなさい。
- 設問3 筆者は、先輩-後輩システムがあるために、どのような雇用形態とコミュニケーション上の現象がおきていると述べているか。説明しなさい。
- 設問4 日本社会における先輩-後輩のような、縦の人間関係の欠点と利点は何か。本文の内容を踏まえながら、あなたの考えを400字以内で述べなさい。